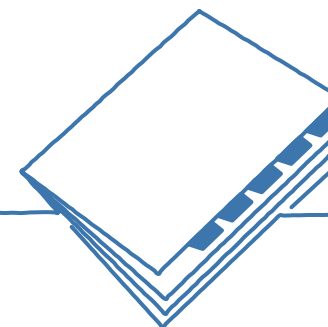


FURUNO

環境報告書 2009



報告範囲・会社概要・Contents (目次)



報告範囲

●対象事業所

本社 (西宮事業所)

〒662-8580
兵庫県西宮市芦原町9-52
TEL : (0798) 65-2111 FAX : (0798) 63-1020

三木工場

〒673-0443
兵庫県三木市別所町巴1
TEL : (0794) 82-9211 FAX : (0794) 83-4743

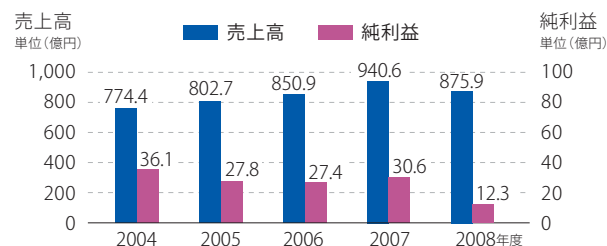
フルノ INT センター

〒662-0934
兵庫県西宮市西宮浜2-20
TEL : (0798) 33-7500 FAX : (0798) 33-7506

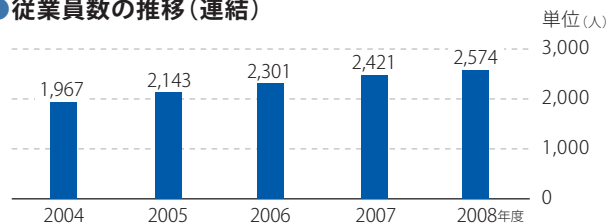
会社概要 (2009年2月28日現在)

社名	古野電気株式会社
本社所在地	〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9-52 TEL : (0798) 65-2111 (代表)
代表者	代表取締役社長 古野幸男
設立	1951年(昭和26年)5月23日
資本金	7,534百万円
売上高	連結:87,585百万円
従業員数	連結:2,574名(2009.2.28現在)
事業内容	船用電子機器、産業用電子機器等の開発・製造および販売
関係会社	国内11社、海外19社

●売上高と純利益の推移(連結)



●従業員数の推移(連結)



Contents

フルノについて

報告範囲	01
会社概要	01
トップメッセージ	02
主要製品	03

環境保全への取り組み

環境理念	04
環境方針	04
環境組織	05
環境マネジメントシステム	05
特集: 持続可能性への挑戦	06・07
2008年度の主な目標と実績	08
環境に優しい製品づくりの推進	09
地球温暖化防止の推進	10
リサイクルの推進	10
環境汚染の防止	10
環境法規制の順守	11
環境教育	12
啓発活動	12

社会とともに

環境コミュニケーション	13
支援活動	13
地域社会とのかかわり	14・15

●対象期間

2008年3月1日～2009年2月28日
一部、対象期間外のデータや情報、見直しなども含みます。

●参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」



海に、環境に優しいモノづくりをめざして

ごあいさつ

●地球環境保全は世界共通の課題

地球環境問題は日増しに深刻さを増しています。地球温暖化による海水や氷河の減少、異常気象、生物の絶滅、あるいは化学物質による環境破壊など、毎日のように世界各地の現象が報道されています。1997年に採択され2012年までの拘束期間が決められた京都議定書は、未だ達成が危ぶまれるなか、既にポスト京都議定書をどうするか動きが始まっています。このような中で、環境問題で世界的に大きな影響力を持つアメリカは、オバマ大統領が就任してから環境保護に大きく舵を切り換えてきました。折からの不況対策もあって、アメリカは今後10年間で1500億ドルを環境事業に投資をし、約500万人の雇用創出を目指すという「グリーン・ニューディール政策」を打ち出しました。

わが国では、3月に環境大臣が「緑の経済と社会の変革」をとりまとめました。それによると、世界に誇るべき日本の環境資源を、①世界最先端の環境技術、②「もったいない」の心、③四季折々に美しい自然、としてこれを活用して、緑の経済と社会の変革により、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指すとしています。そのために、緑の投資、緑の技術革新、緑の社会資本、緑の消費が提唱されており、国の強力なリーダーシップが求められています。

●環境に優しい製品づくり

古野電気は、世界で初めて魚群探知機を実用化して以来、漁労機器、航海機器、無線通信装置などの船舶用電子機器全般のほか、産業用電子機器、医療用電子機器などの製造販売を行っています。中でも船舶用電子機器の売り上げは7割を超えており、当社は海とは切っても切れないかわりをもっています。周知のとおり、海は地球環境の面で、

気候、水、生物などの源です。環境に優しい製品づくりを行うことは、ひいては、海にも優しいことにつながると考えています。

そのためには、製品の開発段階において、いかに環境に優しい設計を行うかが重要だと思っています。最近重要になってきているのが、有害化学物質を使用しない製品づくりです。ある基準以上の化学物質を含有しない、あるいはどれだけの化学物質が製品に含まれているかを把握することがモノづくりに必須になってきています。特に、シップリサイクル条約を順守するための体制整備が必要となっています。このような世界の環境規制の流れに対応しつつ、3R(Reduce:抑制、Reuse:再使用、Recycle:再生利用)が基本の製品作りに努めてまいります。

●さらなるレベルアップを目指して

古野電気は9年前に三木工場ですべてISO 14001環境マネジメントシステムの認証を取得してから、その後、本社を含めた主要事業所で認証を拡大してきました。今後、さらなるレベルアップを図っていくためには、環境経営の視点をベースに、環境配慮設計の推進、化学物質管理の向上、環境会計の取り組みなどが必要となっています。これらは、当社のこれからの環境活動にとって避けて通れない課題であると考えています。今後、推進体制の一層の強化と全員参加により、地球環境保全に貢献できるよう努力してまいります。

代表取締役社長
古野 幸男





海底から宇宙まで——さらなる成長を目指して

古野電気は、超音波および電磁波を中心としたセンサー技術をもとに、船舶用電子機器および産業用電子機器などの開発、製造および販売を主たる事業としています。

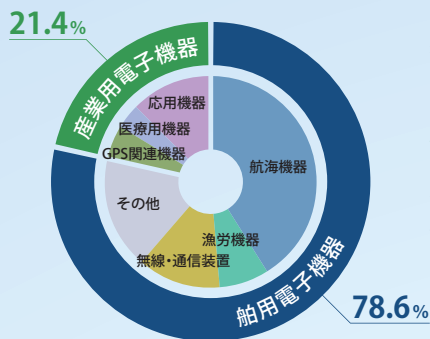
報告範囲(会社概要)
Contents(目次)

トップメッセージ

主要製品

部門別売上高内訳

(2009年2月期実績)



古野電気本サイトが表示されます。本サイトの表示設定はしていません。

船舶用電子機器

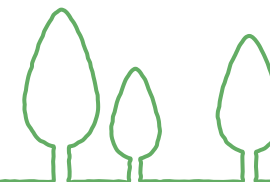
自動衝突予防援助装置付きレーダー・VDR/S-VDR (航海情報記録装置)・INS (統合航海システム) などの航海機器、魚の群れを探知する魚群探知機や、より広範囲な探索ができるソナーなどの漁労機器、インマルサット衛星通信システムやAIS (船舶自動識別装置) などの無線通信装置、さらに海底地形探索装置ソナーや潮流観測装置などの海洋調査機器の開発、製造および販売をしています。

産業用電子機器

ETC車載器や物流業務に使用される無線ハンディターミナルなどの応用機器、カーナビなどに搭載されるGPSモジュールや携帯電話、地上デジタルテレビの基地局に使用される基準周波数発生器などのGPS関連機器、血液検査用の生化学自動分析装置、超音波を使った骨密度測定装置など身近な検査で使用する医療用機器の開発、製造および販売をしています。



フルノの環境理念・環境方針



地球環境の未来を考えた、事業活動に取り組みます

環境理念

古野電気は世界で初めて魚群探知機を実用化し、漁業機器・航海機器・無線通信装置などの船舶用電子機器をはじめ、GPS受信機、医療用機器などの産業用電子機器の、研究・開発、製造、販売、およびサービスを行っています。

全事業活動の中で地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業所および周辺地域の環境保全はもとより「守ろう、私たちの地球! 進もう環境の21世紀を! 古野は環境に配慮した製品をつくり続けます。」のスローガンのもとに、社会に貢献できる環境に優しい事業活動を目指します。

環境方針

1 古野電気は、各種電子応用機器の研究・開発、生産、販売、サービスを行っています。それらの事業活動が環境に与える影響の中で、次の項目について優先的に取り組むものとし、また、古野が育てられた海に優しい活動にも留意し、事業所内で働くすべての人が参加する活動として推進します。



環境に優しい製品づくりの推進

製品のライフサイクルを通して環境負荷を考慮し、環境に配慮した製品の創出に努めます。



グリーン調達への推進

有害物質を含まない原材料購入、環境に優しい事務用品購入などのグリーン調達を推進します。



省エネルギー・省資源の推進

エネルギーの有効利用によってCO₂排出量を抑制し、地球温暖化防止に努めます。また、各種資源の消費を減らし、事業活動による環境負荷を低減します。



廃棄物の削減

事業所から排出される廃棄物の削減を推進します。分別収集を通して産業廃棄物、一般廃棄物のリサイクルを推進し、削減を図ります。



環境汚染の防止

事業所から排出される有害物質により、土壌・水・大気が汚染しないよう防止に努めます。

2 上記項目の推進のため、各事業所では、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を設定し、定期的に見直しをするとともに、環境マネジメントシステムを確立し、継続的改善に努めます。

3 古野電気の事業活動にかかわる環境関連の法規、規制、協定および当社が同意したその他の要求事項を順守し、地域の住民およびその他の利害関係者との信頼関係を保ち、健全で快適な環境の確保に努めます。

4 古野電気内の環境への意識高揚を図るため、事業所で働くすべての人への教育、社内広報活動を通して環境方針と環境改善への理解を深めるとともに、主な取引先に対しても環境保全の理解と協力を求めています。

環境理念・環境方針

環境組織・環境マネジメントシステム

特集：持続可能性への挑戦

〇八年度の主な目標と実績

環境に優しい製品づくり

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止

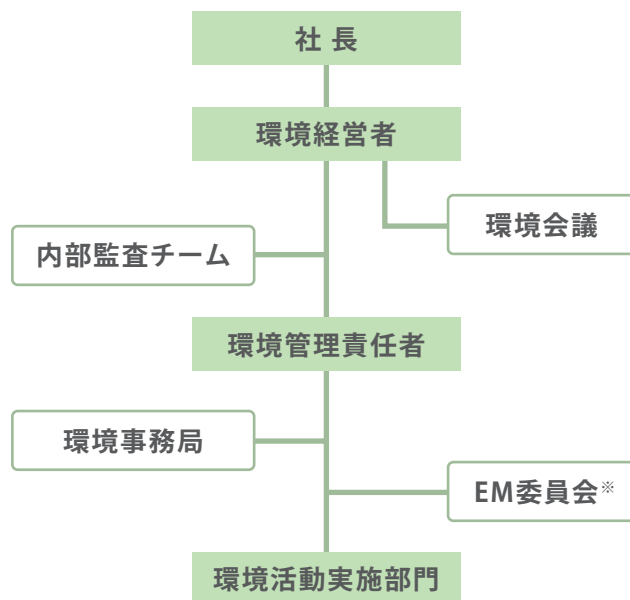
環境法規制の順守

環境教育・啓発活動



各事業所において環境管理推進組織を構成し、地球環境の保全に取り組んでいます

環境組織



※EM委員会：環境保全活動の中心メンバーが定期的集まり、方針決定、具体化などを行う会議。

環境マネジメントシステム

各事業所でISO 14001規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、それぞれに目標を設定し継続的改善活動を実施しています。

西宮事業所



ISO 14001：2004
 認証機関：JACO
 (登録番号：ECO0J0300)
 登録：2001年3月

西宮事業所は本社機能を擁しており、本社管理部門、研究部門、舶用機器事業部の開発・営業・購買部門が主体です。そのため、「環境に優しい製品づくりの推進」は、西宮事業所の主要テーマとして、有害化学物質の排除や省エネルギー・省資源化などの環境に優しい製品設計を担っています。また、地域の環境保全に配慮するとともに、事業所内のCO₂排出量の削減、廃棄物削減、省資源などにも取り組んでいます。

三木工場



ISO 14001：2004
 認証機関：JACO
 (登録番号：EC99J1129)
 登録：1999年12月

三木工場は当社の主力工場として漁労機器、航海機器、無線通信装置を製造し、「環境に優しい生産工場及び製品づくり」を実現しています。電気・水使用量の削減及び生産効率の向上による省エネルギーの推進をはじめ、廃棄物の削減、リサイクル率の向上、製品廃棄時の分解分別容易化、製品出荷時の梱包材削減、グリーン調達、環境関連教育及び訓練の実施など多岐にわたるテーマに全員で取り組んでいます。

フルノINTセンター



ISO 14001：2004
 認証機関：TÜVズードジャパン
 (登録番号：No12 104 17099 TMS)
 登録：2003年8月

フルノINTセンターは産業用電子機器を主とした商品開発、製造、販売を行っています。2008年には、医療機器の主力工場として新設した西宮浜工場も認証サイトに追加しました。また、職場内のファイル削減するとういテーマにも取り組み、前年比21%削減(面積に換算すると25m²)を達成、限られた職場スペースの有効活用を図っています。今後も環境配慮設計、製造、省エネルギー・省資源への質の高い活動を目指していきます。

環境理念・
環境方針

環境組織・環境
マネジメントシステム

特集：持続可能性
への挑戦

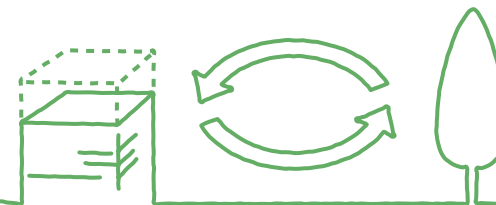
〇八年度の
主な目標と実績

環境に優しい
製品づくり

温暖化防止・リサイクル
の推進・環境汚染の防止

環境法規制
の順守

環境教育・
啓発活動



紙減らし隊から見えてくるもの



松本 治さん

本社（西宮事業所） 人事総務部所属
2008年4月より「紙減らし隊」リーダーとして活躍



兵頭 歩さん

システム機器事業部 事業管理部所属
2008年3月よりINTセンター環境管理責任者を務める



資源ミニステーション管理
責任者教育

紙減らし隊とは

2008年4月、本社直轄部門に「廃棄物のリサイクル率アップとコピー用紙の使用削減」を目的に、従来の環境組織メンバーの枠を超えて、トップダウンによる斬新なプロジェクト、紙減らし隊が誕生した。

紙減らし隊のテーマ

- ▶「見える化」を基本としたコピー紙の削減、廃棄物の削減
- ▶最終目的：社員の仕事のやり方を改善する

紙減らし隊の活動経験から見る環境活動。INTセンターの環境管理責任者である兵頭歩さんとの対談で見えてきたものは？

●モラルの範囲から仕事としての関わりへ

兵頭 まず、活動を始めるまでの環境活動に対する個人的な意識はどうだったか聞かせて下さい。

松本 私自身、環境に対する意識は高い方の人間だという自覚がありました。環境目標などもある程度理解していたし、資源ミニステーションの副管理者でもありました。しかし基本には、仕事をやった後にやるもの、仕事とは違う取り組みというイメージでした。私だけでなく、多くの人も同じような考えだと思います。

兵頭 そういう状況で、紙減らし隊として活動を始めたわけですが。

松本 初めて「仕事としてやれ」と言われた印象でした。仕事と同じレベルで関わられるので動きやすかった。他への依頼などもお願いしやすい。環境マネジメントシステムは、もともとトップダウ

ンの仕組みですが、更に「具体的なテーマに対してもう一押ししてくれた」という感じです。当たり前のことですが、職制ルートの仕事としてやったのでやり易いし、やり易いと面白くなっていくということだと思います。

兵頭 職制での後押しがあることから、自分の中からアイデアも出やすくなり実行しやすくなるということですね。

松本 それまでは「環境活動とはモラルの範囲での関わり」というイメージで、本来の仕事が邪魔しないように、という感じでした。それが仕事の一部となって、より積極的にアイデアを実行しやすくなりました。たとえば週1回形式的に行っていたミニステーションのチェックも毎日してみようかというようなことです。

●紙減らし隊の活動と環境活動

兵頭 では、紙減らし隊の活動をする中で、それ以外の環境活動については？

松本 意識としては変わって行ったのですが、痛し痒しの面があると思います。たとえばプロジェクトを活用して紙が減ったという反面、電力を使用するという問題があるわけです。コピー紙削減だけの取り組みではなく、全体を考慮して、エネルギーの削減という部分でも動けるかという、なかなか自分の中でリンクしていないのが実情です。

兵頭 私としては、紙減らし隊としての活動を通して、エネルギー問題などへの意識も高まったのではないかと考えていたのですが。

松本 気持ちでは考えたい。たとえば昼休みに「パソコンを切ろう」とか考えるのですが、その「やらなあかん！」という意識がみんなに「やりましょう！」という所までは行かないですね。意識が上がるというのと実行は別だと思います。実行するためにはやっぱり看板、肩書きが必要です。紙減らし隊以外の事について、他に働きかけようとした時、「おまえの管轄なのか？」ということになってしまいます。仕事として与えられた以外のアイデアを実行するのは難しいと感じ、ジレンマを持っている人は多いと思います。

環境理念・環境方針

環境組織・環境マネジメントシステム

特集：持続可能性への挑戦

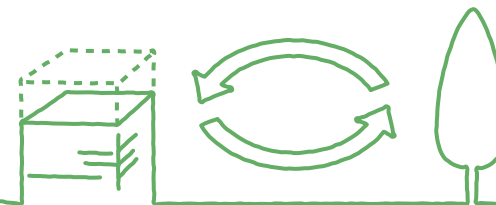
〇八年度の主な目標と実績

環境に優しい製品づくり

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止

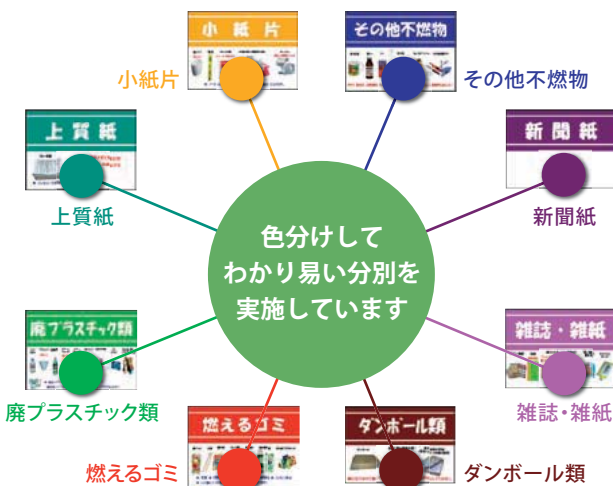
環境法規制の順守

環境教育・啓発活動



紙減らし隊から見えてくるもの

リサイクルのための分別を徹底



ゴミステーションでの分別例

●ボトムアップとトップダウンのサイクルを

兵頭 いいアイデアを提案し、トップを通じて実行に移すということが必要ということですね。

松本 これまでも個別には思っていたが言えなかった人たちが環境事務局に提案をして、有効と判断されれば実行されるという仕組みが明確になれば、活動は活発になると思います。今は自分以外の事として眺めているという状態だと思います。

兵頭 個人的には現在の環境マネジメントシステムのようなトップダウンの仕組みだけでは限界があり、それを補うためのボトムアップの仕組みも必要だと思っています。

松本 トップダウンだけでもボトムアップだけでもそれぞれの限界はあると思います。むしろ、ボトムアップで上がってきたアイデアをトップダウンで戻すというサイクルがきちんとしてくれば、良い形で動いて行くと思います。

ただ、現状では本社直轄部門での紙減らし隊の結果をそのまま西宮事業所全体へ展開するのは、職制の問題があり難しいと思っています。

兵頭 自部門での成果を他部門のトップに戻すという仕組みがいるということですね。

松本 「やってねー」というだけでは他部門は動かない。そういう場合には、部門を横断する会社レベルの働きかけが必要ではないでしょうか。

兵頭 いくら良いアイデアでもそれを実行するためには、トップの具体的に強い意志表明が必要ということですね。ボトムアップで生まれた良いアイデアをトップダウンの仕組みに戻すというのは、PDCAサイクルとは少し異なるボトムアップとトップダウンを結ぶ、立体的なサイクルを見える形にすること、それが全体

の意識向上に繋がるのだと思いました。今後は環境連絡会などの場を通じて、ボトムアップとトップダウンのサイクルについての検討をしてみたいと思います。今日は貴重なご意見をありがとうございました。



兵藤さん、松本さんの対談風景

インタビュー後記

環境への取り組みが業務としてではなく、ボランティア的な視点で捉えられている事が全体の意識向上につながらない問題点だと思います。実際には、マネジメントシステムはトップダウンでの取り組みが前提なわけで、業務の一環ではあることに間違いはないのですが、より具体的なトップダウンの指示が必要だということなのだと思います。そしてその具体性のベースとなるアイデアがボトムアップで出てくるサイクルが作れるとしたら、全体の意識は向上していくと考えます。(兵頭)

環境理念・環境方針

環境組織・環境マネジメントシステム

特集：持続可能性への挑戦

〇八年度の主な目標と実績

環境に優しい製品づくり

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止

環境法規制の順守

環境教育・啓発活動

2008年度の主な目標と実績



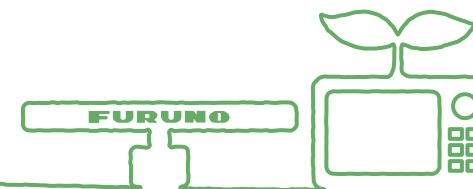
中期目標の達成に向けて年度毎に評価を行い、次年度の活動計画に繋げています

取り組み項目	2008年度目標	2008年度実績	自己評価	2009年度目標	
<p>環境に優しい製品づくり (西宮事業所)</p>	<p>省エネルギー・省資源化</p>	新規開発機種には環境適合設計基準を100%適用し、更に機種毎の環境目標を達成する	次期にわたる継続機種の達成見込みも含め、ほぼ目標は達成した。	○	2008年度目標を継続
	<p>有害化学物質の適正管理</p>	EU法規制である『REACH規則対応』船舶のリサイクル対応条約である『シップリサイクル対応』	製品含有化学物質規制 (REACH規則等) 対応へのプロジェクト発足。活動継続中。	○	シップリサイクル条約への重点的対応 化学物質管理データベース導入
	<p>環境配慮製造の推進</p>	工程短縮による省電力プリント基板無洗浄化	評価は完了し、達成率は90%	○	工程での省電力を継続検討
<p>地球温暖化防止</p>	<p>二酸化炭素 (CO₂) 排出量の削減</p>	前年度実績比+4.1%	前年度実績比-3.8% (減少要因: 配電設備の更新)	○	前年度実績比-1%
<p>廃棄物のリサイクル化</p>	<p>廃棄物全体のリサイクル率の向上</p>	リサイクル率84%	リサイクル率84.3%	○	リサイクル率88%
<p>環境汚染の防止</p>	<p>社有車の低排出ガス車化の推進</p>	低排出ガス車化率72%	低排出ガス車化率73.1%	○	低排出ガス車化率77%

自己評価 ○ 達成できた △ 達成率80%以上 × 達成率80%未満

環境方針
環境理念・環境マネジメントシステム
環境組織・環境
マネジメントシステム
の特集・持続可能性への挑戦
〇 8年度の主な目標と実績
環境に優しい製品づくり
温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止
環境法規制の順守
環境教育・啓発活動

環境に優しい製品づくりの推進



製品の設計から廃棄に至るまで、環境負荷を減らす取り組みを進めています

環境に優しい製品づくりへの取組推移

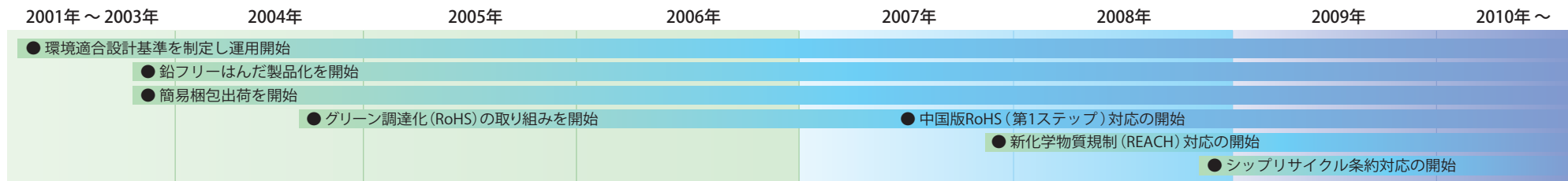
● 環境適合設計基準の運用

製品の設計において、環境に悪影響を与える物質を含む部材の使用制限や、省資源、省エネルギー化および製品廃棄時の分解性・再資源化などを配慮した当社独自の設計基準です。この基準をもとに、環境に優しい製品づくりを行っています。

● 製品含有化学物質の管理

EU RoHS指令から中国RoHS、REACH規則への対応と、製品に含まれる化学物質の管理が一段と重要となってきています。造船業界においても、船舶を解体する時の作業員への安全対策、海洋汚染防止を目的とした、シッパーサイクル条約が締結されました。

本条約においても、製品の含有化学物質の重量の把握が求められており、各々の製品に含まれる化学物質を管理していくことが不可欠となります。当社も、昨年発足した「製品含有化学物質管理プロジェクト」活動を継続し、シッパーサイクル条約を順守するための体制作りに取り組み中です。



省エネルギー・省資源製品の開発

2008年度は、特殊な機器を除く全ての新規設計製品において、製品の使用及び廃棄における環境負荷軽減のため、製品の設計段階で有害物質の制限、省電力・省資源化および製品廃棄時の分解性、再資源化などを規定した環境適合設計基準に基づいた製品開発を行いました。以下は、当社の環境適合設計基準に基づいて開発した製品の一例です。

● 廃電気電子機器 (WEEE) 指令への対応

INT事業所では、ヨーロッパ顧客向けに生産する医療機器分野で廃電気電子機器 (WEEE) 指令に対応したユーザー向け資料の作成を開始しています。



● グリーン調達の推進

当社製品に組み込まれる部品、部材は、「部品・部材グリーン調達基準」「環境適合設計基準」に基づき、鉛フリー部品、RoHS対応部品の購入を優先しています。

開発製品名・MODEL名	MODEL1835	DR-100	FELCOM500
製品概要	簡単な操作で状況に応じた設定が出来るカラー液晶レーダーです。	データ通信機能により GPS 位置情報など文字情報を送受信できる、国内小型漁船向けの DSB 送受信装置です。	全世界で高速ブロードバンド通信を提供、業務上の通信はもとより、船員の家族との連絡等、福利厚生の上にも大きく寄与する衛星通信端末です。
環境配慮の特徴	小型軽量化 体積 35% 減 質量 28% 減 指示部消費電力 34% 減 (対同等機能旧モデル)	小型化 体積 31% 減 消費電力 37% 減 (対同等機能旧モデル)	小型化 実績 33% 減 (対同等機能旧モデル)

環境方針

環境組織・環境マネジメントシステム

特集：持続可能性への挑戦

〇八年度の主な目標と実績

環境に優しい製品づくり

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止

環境法規制の順守

環境教育・啓発活動

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止



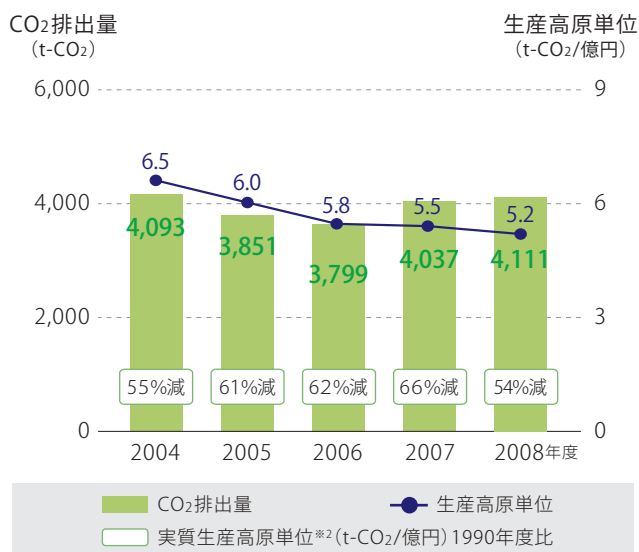
環境の保護、資源の節約などを念頭に持続可能な社会を目指して取り組んでいます

地球温暖化防止の推進

●二酸化炭素(CO₂)排出量の削減

2008年度は、設備の改善や空調管理の最適化(三木工場)により、電力削減を目指しましたが、結果は微増となりました。

CO₂排出量と生産高原単位^{*1}の推移



<2010年度目標:電機・電子4団体>

2010年度までに実質生産高CO₂原単位で、1990年度比35%削減する。

^{*1} 生産高原単位 (t-CO₂/億円) = CO₂排出量 (t-CO₂) ÷ 生産高 (億円)

^{*2} 実質生産高原単位 (t-CO₂/億円) = CO₂排出量 (t-CO₂) ÷ (生産高 (億円) ÷ 日銀による国内企業物価指数:電気機器の部)

●省エネの取り組み

三木工場では、建物や設備改修時に省エネや環境を考慮した計画をするよう心がけています。

1 屋根の遮熱塗装

三木工場では夏期の空調負荷低減のため第2工場南棟屋根の防水塗装工事と同時に遮熱塗装を施しました。



屋根遮熱塗装(三木工場)

2 外壁塗装

第2工場北棟外壁塗装の定期保守工事では「セルフクリーニング効果」と「空気洗浄効果」のある塗料を採用しました。空気浄化はポプラの木を24本植えることに等しい効果をもたらしています。



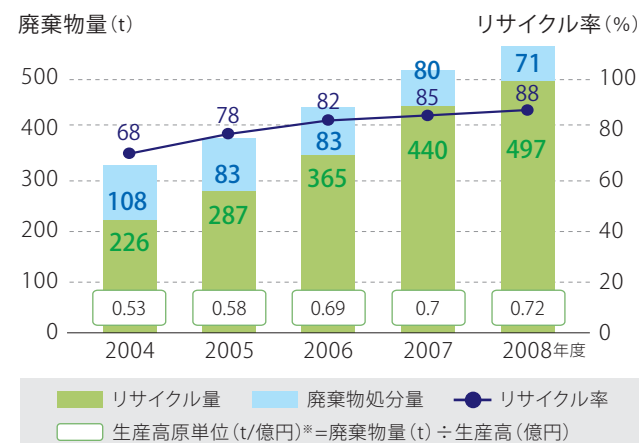
外壁塗装工事(三木工場)

リサイクルの推進

●廃棄物のリサイクル

2007年度は、生産の拡大に伴い廃棄物の総量は増加しましたが、再資源化の取り組みにより、リサイクル率アップの目標達成を図ることができました。

廃棄物量とリサイクル率の推移



^{*} 生産高原単位 (t/億円) = 廃棄物量 (t) ÷ 生産高 (億円)

注) 2007年度の数値は発行後の精査の結果数値が変更になっています。

環境汚染の防止

●社有車の低排出ガス車化の推進

当社は、古野グループ社有車の排気ガスによる大気汚染を軽減させるため、低排出ガス車(国土交通省低排出ガス認定車)などの比率を高める取り組みを行っています。2008年度は、古野グループ全車の73%が低排出ガス車になりました。

環境理念・環境方針

環境組織・環境マネジメントシステム

特集:持続可能性への挑戦

〇八年度の主な目標と実績

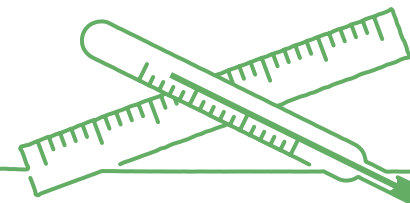
環境に優しい製品づくり

温暖化防止・リサイクルの推進・環境汚染の防止

環境法規制の順守

環境教育・啓発活動

環境法規制の順守



社内の環境規制基準値を定めて、定期的に監視・測定をしています

重要な法規制に対する管理状況

項目	2006 年度実績	2007 年度実績	2008 年度実績
 大気汚染	基準値以下	基準値以下	基準値以下
 水質汚濁	基準値以下	基準値以下	基準値以下
 騒音・振動	基準値以下	基準値以下	基準値以下
 環境負荷物質※1	適正処理・管理を実施※2	適正処理・管理を実施※3	適正処理・管理を実施※3
 廃棄物	適正処理・管理を実施	適正処理・管理を実施	適正処理・管理を実施



※1 化学物質などで環境や生物などに大きな負荷を与える物質

※2 PRTR*法に該当していた鉛はんだの鉛フリー化により同法は非該当になりました

※3 PRTR*法の該当物質はありません

*PRTR:「Pollutant Release and Transfer Register」(化学物質排出移動量届出制度)有害性のある化学物質(現在354物質群)で年間1トン以上の使用・排出量などのデータを集計して公表する仕組み。

環境に関する重大事故、苦情の状況

項目	2006 年度実績	2007 年度実績	2008 年度実績
 重大事故・緊急事態の発生状況	発生件数：0 件	発生件数：0 件	発生件数：0 件
 苦情状況	発生件数：0 件	発生件数：1 件※1	発生件数：0 件

※1 近隣より騒音の苦情があり、設備改善を行って対応しました

環境理念・
環境方針

環境組織・環境
マネジメントシステム

特集：持続可能性
への挑戦

〇八年度の
主な目標と実績

環境に優しい
製品づくり

温暖化防止・サステイ
な推進・環境汚染の防止

環境法規制
の順守

環境教育・
啓発活動



社内で働くすべての人の意識を高めるために、教育や訓練を実施しています

環境教育

新入社員を対象とした新入社員教育、年1回実施する基礎教育、役職者に対する幹部教育などを通して、資源・エネルギーの有効利用の重要性、環境経営の基本となる環境マネジメントシステム、多岐にわたる海外・国内外の法規制への対応などの教育を行っています。

また、環境に影響を与える特定の作業従事者に対しては緊急事態模擬訓練を行うなど、階層別の教育・訓練を行っています。

1 環境新入社員教育

新入社員研修時に環境教育を実施します。この研修では現状の環境問題、当社の環境への取り組みや関わりなどを教育しています。



環境新入社員教育

2 環境一般教育

毎期初めに環境一般教育を各部署が実施します。この教育では環境方針および手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性を自覚させることが目的です。



一般教育

3 緊急事態模擬訓練

製造現場では、環境汚染につながるような緊急事態に即時に対応するため、定期的に「緊急事態模擬訓練」が行われます。



緊急事態模擬訓練(危険物倉庫油漏れ)

社内啓発活動

エコニュースの発行やポスター掲示などを中心とした従業員への情報発信によって社内啓蒙活動を行っています。

西宮事業所
ECOニュース



三木工場
ポスター掲示



INTセンタ
ECOニュース



環境理念・
環境方針

環境組織・環境
マネジメントシス
テム

特集・持続可能性
への挑戦

〇八年度の
主な目標と実績

環境に優しい
製品づくり

温暖化防・リサ
イクルの推進・環
境汚染の防止

環境法規制
の順守

環境教育・
啓発活動

環境コミュニケーション・支援活動

環境報告書やWEBサイトを通じて情報を発信しています



環境コミュニケーション

古野電気では、環境保全活動に関する情報を社会に開示し、企業の信頼性と透明性を高めるために、環境報告書の発行やWEBサイトを通じて環境情報を発信しています。

●環境報告書の発行

本社、三木工場、INTセンターにおける環境保全活動や社会的活動の実績およびその成果を中心に取りまとめた「環境報告書」を2006年より、WEBサイトに掲載しております。
なお、森林保護に配慮し、WEBサイトでの公開のみとさせていただきます。



環境報告書

●フルノ WEBサイト

古野電気では、WEBサイトを活用して環境活動の情報を公開しています。WEBサイトでは、「環境理念・方針」、「環境への取り組み」、「環境マネジメントシステム」、「環境報告書」、「資材調達」に関する情報を公開しています。
また、できる限りWEBサイト上で必要な情報が入手できるよう、お客さまからいただいたお問い合わせの内容を情報発信の改善につなげております。

<http://www.furuno.co.jp/corporate/environmental/policy.html>



フルノWEBサイト「環境活動」

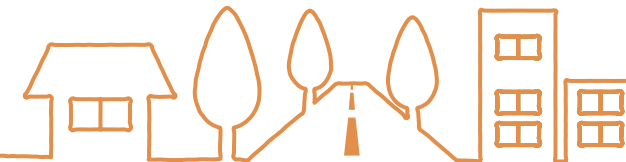
支援活動

●「間寛平氏・アースマラソン」の安全航海をバックアップ

タレントの間寛平氏が、マラソンとヨットだけで地球一周に挑戦する「アースマラソン」プロジェクトに、フルノは航海用電子機器、無線通信装置などの提供で協力しています。また、技術サポートで航海の安全をバックアップしています。



Copyright(c) 2008 間寛平アースマラソン製作委員会



人々とのかかわりを通して、信頼できる豊かな関係を築きます

工場見学と体験学習の受け入れ

●工場見学の受け入れ

三木工場では事業内容を地域社会の皆さまに知っていただくため、工場見学の受け入れを積極的に行っています。2008年は学校関係者や企業・団体その他海外からお客さまを迎え、76回712名の見学者を受け入れました。

工場では、プリント基板や各種製品の組み立て・検査などを見学いただいています。



地元小学生による工場見学

●企業体験学習

当社では地域社会との共存、貢献の観点から「インターンシップ※」や兵庫県下で実施されている「トライやる・ウィーク」など高校生・中学生の体験学習の受け入れを行っています。生徒の皆さんには「製品の組み立て」はもちろん、「廃棄物の分別廃棄」「会社のルール」について体験学習をしていただいています。

※インターンシップとは：学生が在学中に自分の学習や専攻に関連している 企業に体験就業する制度



企業体験(インターンシップ)の生徒

従業員ボランティア活動

●森林ボランティア

兵庫県では環境活動の一環として「豊かな森づくりプラン」に基づき1994年から「森林ボランティア講座」が行われています。この講座では森の大切さ、保全の必要性を理解するため、森林整備や森再生に必要な基礎知識を習得するもので、古野電気では2008年秋に3名の社員が自主的にこの講座を受講しました。



植樹の様子

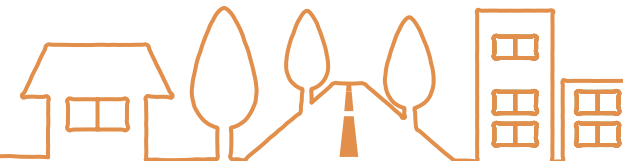
●会社周辺の清掃活動

INTセンターでは近隣企業と連携して清掃活動の一斉行動日(クリーンデー)を設け、周辺の美化に協力をしています。

また、西宮事業所と三木工場でも毎月1回の清掃活動日を設け、事務所周辺の清掃を行っています。



INTセンター周辺の清掃活動



「良き企業市民」として地域社会の一員であると自覚しています

地域社会とのかかわり

フルノは「良き企業市民」として、地域社会の一員であると自覚し、人々とのかかわりを通して、相互に信頼できる豊かな関係を築いて行くことも企業の重要な使命であると考えています。

「敬老のつどい」に軽音楽部出演

古野電気には軽音楽部のクラブがあり、地域からの要請に応じて演奏活動を行うことがあります。昨年秋には、市内の社会福祉協議会主催の「西宮市北六甲台・敬老のつどい」に出演しました。地元の小学校体育館には約200人が来場され、軽音楽部はスタンダードジャズを中心に演奏しました。つどいには軽音楽部の他にも大正琴や舞踏、民謡、リコーダー演奏など多彩な団体が参加していて大盛況となりました。



救急救助員の養成

AEDの使用を含め、救急時にすぐさま対応できる救急救助員の養成を図ることができました。毎年、専任講師による実践に即した訓練を行い、応急措置のできる救急救助員の養成を行っています。西宮事業所では今年73名が新たに育成され、総数185名となりました。



AEDを使った心肺蘇生訓練

AEDの設置と救命協力施設への登録

各事業所では従業員や近隣の方々へ急病人が発生した場合に備え迅速に救命処置が出来るようにAED(自動体外式除細動器)を設置しています。また、玄関前の良くわかる位置に表示を行い近隣の方にも使っていただけるよう配慮をしています。特に西宮事業所では西宮市の「救命協力施設」の登録を行い、地域の方への活用が計られています。



西宮市救命協力施設の掲示(本社玄関)

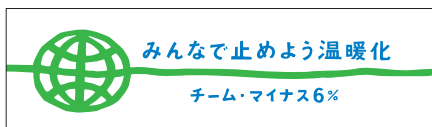
献血の協力

日本赤十字社が推進する血液事業を支援し、当社では1971年から献血に協力してきました。1983年からは毎年実施し、2000年には20年にわたる協力に対し金色有功賞を受賞。2008年度の協力者は228人。今後も献血活動を推進していきます。



献血の様子(INTセンター)

FURUNO



発行について

古野電気では、森林保護の観点から、冊子での発行を行わずWeb版のみの公開とさせていただきます。
ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。(2009年09月 発行)

この「環境報告書」に関するご意見、ご要望などをお聞かせください。

お問い合わせ先

古野電気株式会社 経営企画部
〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9-52

TEL : (0798) 63-1045 FAX : (0798) 63-1020
E-mail : support.eco01@furuno.co.jp